

2025年なくなる仕事／維新候補150人は何者か



朝日新聞
WEEKLY AERA '12.12.10

昭和63年9月10日第3種郵便物認可 2012年12月10日発行
毎週月曜日発行(12月3日発行) 通巻1373号

HERMÈS PARIS HERMÈS TIME IN MOVEMENT



DRESSAGE

エルメスの時計は時をつかさどり、リズムを刻みます。『ドレサージュ』の心臓部に宿るのは、自動巻のH1837ムーブメント。ひとつのアイデアからコンセプトを練り、パーツ組みから仕上げに至るまでの丁寧な手仕事。技術と品質の追求に妥協はありません。すべては、より正確に時を刻むために。

Public Relations

お問い合わせ先 Tel. 03(3569)3300 www.hermes.com

雑誌21012—12/10



4910210121227 ©2012 Asahi Shimbun Publications Inc.
00362 Printed in Japan 凸版印刷株式会社印刷

少女はなぜ延命治療を拒否したのか

命は長さではない

一昨年9月、一人の少女が延命治療を拒否して亡くなつた。なぜ、少女は運命を受け入れることができたのか。

子どもにとつて「最善の利益」とは何か。生きるとは、どういうことなのか。

喜八郎さんは初めて、華子さんに延命治療をしようと、諭すように語りかけた。
「華ちゃん。生きてほしい。生きていると、きっといいこともあるんだよ……」

早苗さんも葛藤する。

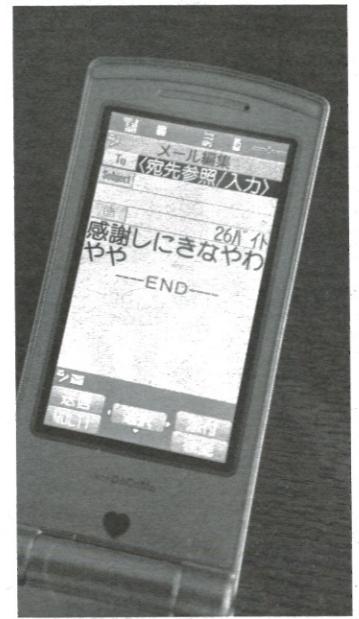
「少しでも長く生きてほしい。その思いはどの母親も同じ」しかし、人工透析にも危険が伴う。服用していた薬の副作用や人工呼吸器のコントロールは華子さんの自身も感じていた。「華子の決断を尊重すること親にできる精いっぱいのこととした」（早苗さん）

延命治療に広がる疑問

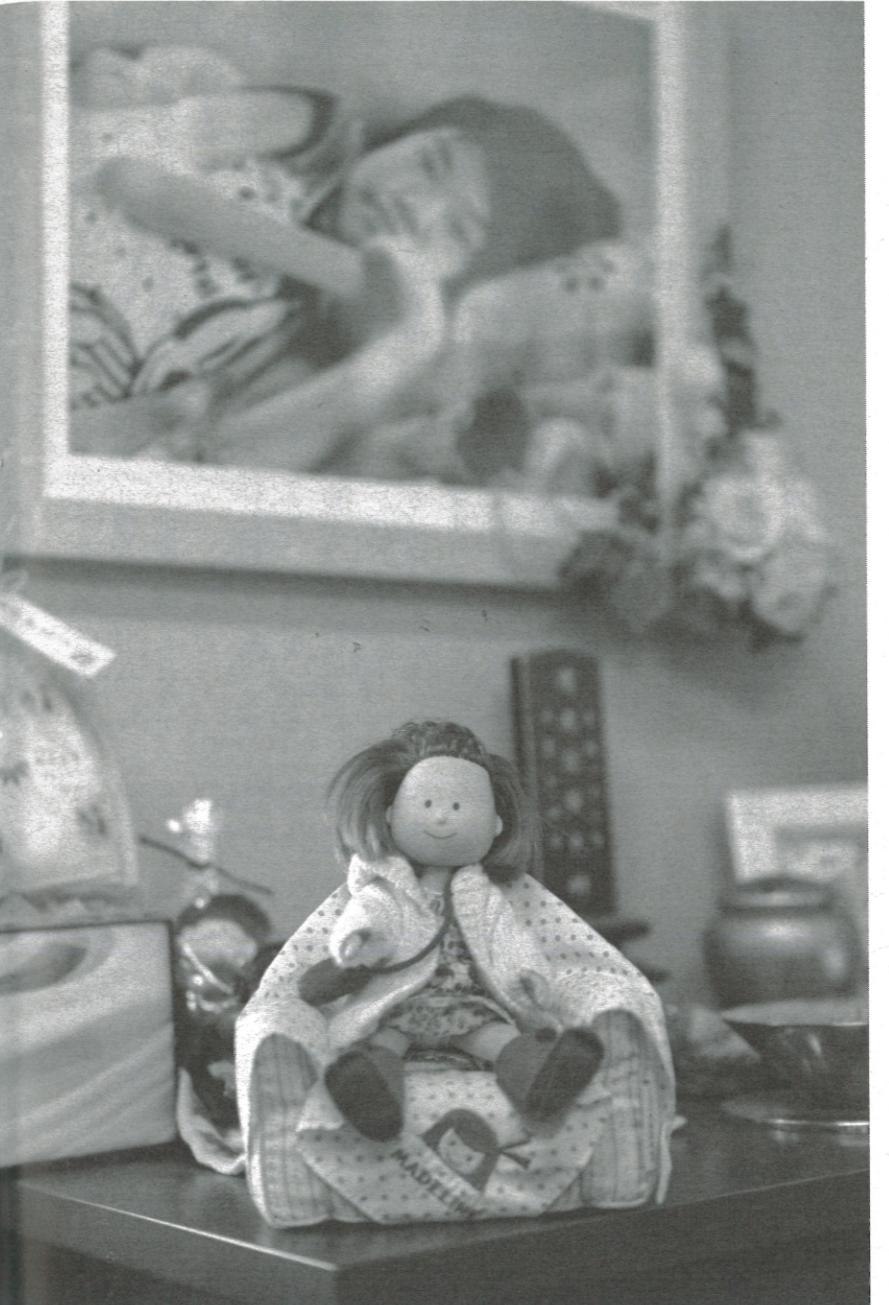
そんな両親に、華子さんは「パパとママへ」と題するA4用紙1枚の手紙を渡した。
「三人で最期まで笑顔で明るいお家でいこうね」

8月末、華子さんは肺炎になり、呼吸ができなくなつた。薄れゆく意識のなか、華子さんは携帯にメッセージを打ち込んだ。
〈感謝しなきや〉
「華ちゃんよかつたね。よかつたね、聞こえる華子？ パパに抱っこしてもらつたじやない、

早苗さんは、耳元で叫んだ。
「華ちゃんよかつたね。よかつたね、聞こえる華子？ パパに抱っこしてもらつたじやない、



声を失った華子さんの主なコミュニケーション手段は携帯メール。薄れゆく意識の中、必死に伝えようとした両親への最後のメッセージ



自宅の小さな仏壇には、華子さんが大好きだった人形が置かれ、自宅のベッドで微笑む華子さんの写真が飾ってある

華子さんは心臓に障害をもつ

て生まれた。8歳の時にドイツ

で心臓移植手術を受けたが、合

併症のため15歳で呼吸困難にな

った。気管を切開し、人工呼吸

器をつけなければ助からない。

器をつけなければ助からない。

華子さんは後に、こうつづつ

あるんだよ……」

それは命と引き換えに「声」を

失うこと意味した。

〈今までの入院生活経験の中

で私自身、一番辛いものでした〉

華子さんは後に、こうつづつ

わかったと約束すること

早苗さんはそう振り返る。

きらめたのではない。前回きに

治療に取り組んだ。

娘の必死の訴えに親ができる

ことは、彼女の思いを尊重し、

受けがえのない時間だつた。

ところが自宅で暮らしが急

変。腎不全を発症したのだ。

延命治療でなく、家族との時間を選んだ華子さん。訪問診療の医師に支えられ、親子3人の穏やかで楽しい日々が続いた。窓から差す朝の光。テレビでみそ汁がほんのり湯気を立ち。昼間はソファでおやつを食べ、音楽を聴く。夕方、台所で早苗さんがトントンとまな板の音を響かせ、父親の喜八郎さんが仕事から帰る足音が聞こえる。家族で囲む食卓。一分一秒がかけがえのない時間だつた。

医師に支えられ、親子3人の穏やかで楽しい日々が続いた。窓から差す朝の光。テレビでみそ汁がほんのり湯気を立ち。昼間はソファでおやつを食べ、音楽を聴く。夕方、台所で早苗さんがトントンとまな板の音を響かせ、父親の喜八郎さんが仕事から帰る足音が聞こえる。家族で囲む食卓。一分一秒がかけがえのない時間だつた。

医師に支えられ、親子3人の穏やかで楽しい日々が続いた。窓から差す朝の光。テレビでみそ汁がほんのり湯気を立ち。昼間はソファでおやつを食べ、音楽を聴く。夕方、台所で早苗さんがトントンとまな板の音を響かせ、父親の喜八郎さんが仕事から帰る足音が聞こえる。家族で囲む食卓。一分一秒がかけがえのない時間だつた。

3年たつた10年5月、容体が急

変。腎不全を発症したのだ。

3年たつた10年5月、容体が急

変。腎不全を発症したのだ。

最後まで家にいたい

人工透析を受けなければ命にかかる。だが、在宅での透析は不可能——。主治医の宣告に、華子さんはこう伝えた。

〈透析をしないで家で最後までいたいと思います〉

両親にもメールをした。

〈パパとママは、私をいつも一緒に考えて愛してくれて育ててくれたから、妻く幸せだったよ。だから、どんなことがあってもパパもママも後悔したりしないでね〉

透析を拒んだ華子さんの体はむくみ、はれ上がつた。腹水がたまり、呼吸も困難になつた。

両親にもメールをした。

〈パパとママは、私をいつも

一緒に考えて愛してくれて育てて

くれたから妻く幸せだったよ。

だから、どんなことがあってもパパもママも後悔したりしないでね〉

透析を拒んだ華子さんの体はむくみ、はれ上がつた。腹水がたまり、呼吸も困難になつた。

両親にもメールをした。

〈パパとママは、私をいつも

一緒に考えて愛してくれて育てて

くれたから妻く幸せだったよ。

だから、どんなことがあってもパパもママも後悔したりしないでね〉

透析を拒んだ華子さんの体はむくみ、はれ上がつた。腹水がたまり、呼吸も困難になつた。

両親にもメールをした。

〈パパとママは、私をいつも

一緒に考えて愛してくれて育てて

くれたから妻く幸せだったよ。

だから、どんなことがあってもパパもママも後悔したりしないでね〉

透析を拒んだ華子さんの体はむくみ、はれ上がり、腹水がたまり、呼吸も困難になつた。

両親にもメールをした。

〈パパとママは、私をいつも

一緒に考えて愛してくれて育てて

くれたから妻く幸せだったよ。

だから、どんなことがあってもパパもママも後悔したりしないでね〉

透析を拒んだ華子さんの体はむくみ、はれ上がり、腹水がたまり、呼吸も困難になつた。

両親にもメールをした。

〈パパとママは、私をいつも

一緒に考えて愛してくれて育てて

くれたから妻く幸せだったよ。

だから、どんなことがあってもパパもママも後悔したりしないでね〉

透析を拒んだ華子さんの体はむくみ、はれ上がり、腹水がたまり、呼吸も困難になつた。

両親にもメールをした。

〈パパとママは、私をいつも

一緒に考えて愛してくれて育てて

くれたから妻く幸せだったよ。

だから、どんなことがあってもパパもママも後悔したりしないでね〉